

町田市観光まちづくり基本方針（素案）

1 基本方針策定の考え方

近年「観光」に対するニーズが多様化し、「名所や旧跡を巡る観光」に加え、「その地域ならではの体験や地域の人との交流を楽しむ観光」へと志向が広がってきています。

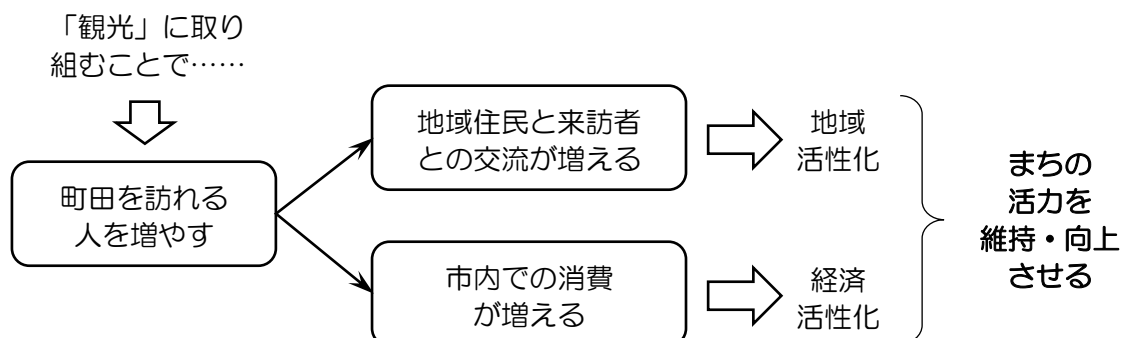
こうした流れを受け、町田市では地域資源を活かし、町田さくらまつりや町田時代祭りをはじめとする観光イベントの開催、シティセールス活動、小野路宿里山交流館の整備などに取り組んできました。

また、2009年には町田市の観光振興の中心的な役割を担う組織として、町田市観光コンベンション協会を設立し、観光ホームページやマップ等での情報発信、観光案内所「町田ツーリストギャラリー」の開設、まちだ観光案内人の養成、ガイドウォークツアーや体験教室の実施など様々な取り組みを行ってきました。

このような取り組みを進める中、国においては、「観光」を成長戦略と地方創生の大きな柱と捉え、積極的に推し進めようとしています。また、町田市においては2020年をピークに人口が減少すると予測され、地域活力の低下が懸念されています。

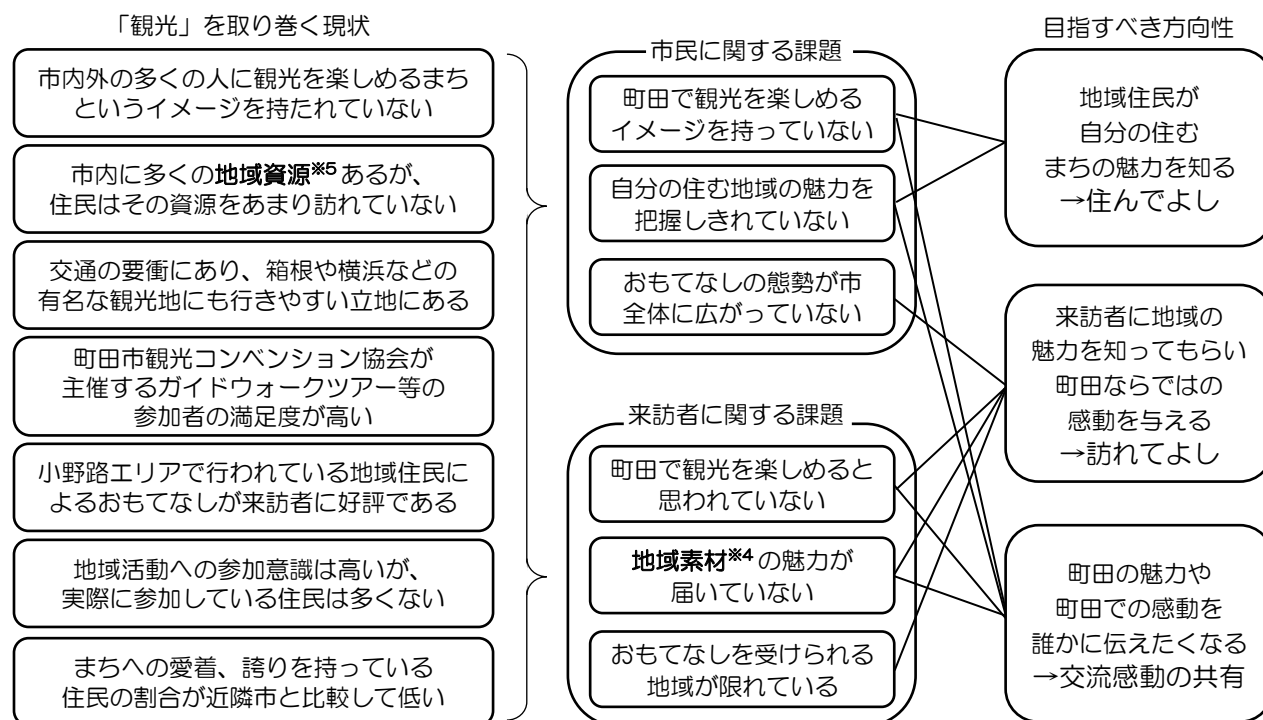
そこで、まちの活力を維持・向上させる取り組みの一つとして「観光」を切り口に町田を訪れる人を増やし、**来訪者^{*1}**と**地域住民^{*2}**の交流を活発にすることによって地域活性化を目指すとともに、来訪者に市内で観光を楽しみ消費していただくことによって経済活性化を目指します。

これらの取り組みの担い手として、**市民^{*3}**の力が不可欠であることから、「なぜ町田市で観光に取り組むのか」、「町田市はどのような観光を目指すのか」を明らかにし、その共通理解のもと行政と市民が協働で「観光」に取り組むため、「町田市観光まちづくり基本方針」を策定します。



2 町田市の「観光」を取り巻く現状と目指すべき方向性

市民や来訪者を対象に行った各種調査の結果を分析して、町田市の「観光」を取り巻く現状を抽出しました。その現状を市民に関する課題と来訪者に関する課題として整理し、その課題を解決するための目指すべき方向性を導いています。



【参考】町田の主な地域資源

自然・景観	町田薬師池公園四季彩の杜（薬師池、ぼたん園、ダリア園）、野津田公園、芹ヶ谷公園、尾根緑道、忠生公園、小山田緑地、大戸緑地、北部丘陵、鶴見川源流、境川源流
歴史・伝統	高ヶ坂石器時代遺跡、旧永井家住宅、絹の道、旧白洲邸武相荘、自由民権資料館、小島資料館
文化施設・観光施設	国際版画美術館、市民文学館ことばらんど、リス園、町田市フォトサロン、小野路宿里山交流館、あとりえ・う
街のにぎわい	町田シバヒロ、仲見世商店街、原町田七福神、駅前大型店舗
サブカルチャー	古着、アニメ、ラーメン、ご当地映画（まほろ駅前多田便利軒）
イベント	町田さくらまつり、フェスタまちだ、町田時代祭り、キラリ☆まちだ祭、大賀ハス観蓮会、菊花展、町田天満宮例大祭、まちだ全国バレエコンクール、全国町田ピアノコンクール
ホームタウンチーム	FC 町田ゼルビア、ASV ペスカドーラ町田、キャノンイーグルス
人物	八木重吉、遠藤周作、白洲次郎、白洲正子、田河水泡、畦地梅太郎、北村透谷、宮川哲夫、三浦しをん

3 町田市の「観光まちづくり」の将来像

行政と市民が協働で「観光振興」と「まちづくり」の両面から自分の住む地域を見つめ直し、地域が持つ歴史、自然、文化などの地域素材の魅力に気付き、それを磨き、おもてなしを通じて町田ならではの感動を与える「観光まちづくり」を進めます。

この「観光まちづくり」を進めることにより、市内で観光を楽しむ人を増やし、市民にとっては地域に愛着を感じ住み続けたいくなるような、来訪者にとっては何度も訪れたいくなるようなまちを実現します。

そこで、町田市の「観光まちづくり」の将来像を以下のとおりとします。

住んでよし、訪れてよし、交流感動都市まちだ

4 町田市の「観光まちづくり」の将来像を実現するために

町田市の「観光まちづくり」の将来像を実現するため、以下の3つの方針に基づき、様々な施策を展開します。

方針1 町田ならではの地域素材の魅力の洗い出し・磨き上げ

来訪者へのヒアリング等による基礎データの収集を行うとともに、地域住民以外の力も借りて、今ある地域素材の洗い出しと磨き上げを行い、町田ならではの体験を提供し、何度も足を運びたいくなるような魅力ある地域資源にします。

方針2 観光まちづくりの担い手と態勢（体制）づくり

地域でのおもてなし機運の醸成、体験プログラムやガイドウォークツアーの充実、観光案内人の担い手の拡充などを行い、市民全体で来訪者をおもてなしができるよう、観光まちづくりの担い手づくりと態勢（体制）づくりを行います。

方針3 地域素材が持つ魅力の伝達

情報を伝達するターゲットを明確化するとともに、来訪者による情報発信を促進するための仕組みをつくり、町田の地域素材が持つ魅力を多くの人に伝えていきます。

5 将来像の達成目標

本方針の期間を2017年度から2030年度までの14カ年とし、「観光まちづくり」の将来像の実現に向けて、取り組みを段階的に進めていく上での道しるべとなる短期・中期・長期の達成目標を以下のとおりとします。

達成目標の進捗状況を確認するため、進捗状況を示す指標と達成時期を定め、識者の意見も聴取しながら検証を行っていきます。

	短期達成目標	中期達成目標	長期達成目標
方針1 町田ならではの地域素材の魅力の洗い出し・磨き上げ	地域素材の魅力の洗い出し、掘り起しがなされている	地域資源に触れた来訪者の反応を受けて地域資源がさらに磨き上げられる	地域住民にとって愛着や誇りの持てる地域資源となっている
方針2 観光まちづくりの担い手と態勢（体制）づくり	地域で来訪者をおもてなしする体制ができていく	おもてなしの担い手として各世代が参加している	市民全体で来訪者をおもてなしする態勢になっている
方針3 地域素材が持つ魅力の伝達	地域住民が地域素材の魅力に気付いている	町田で観光を楽しんだ人自らがその魅力を発信している	市内外の人に魅力が伝わり、交流が拡大している

用語解説

- ※1 来訪者 市内外から地域を訪れる地域住民以外の人
- ※2 地域住民 市内の特定地域（小学校区程度の地域）に住んでいる人
- ※3 市民 市内に住んでいる人（住民）と市内を拠点に活動する個人及び団体（事業者も含む）
- ※4 地域素材 地域に眠る磨かれる前の素材
- ※5 地域資源 地域素材を磨いた資源